

二人称的アプローチによる授業研究 -教師の情動的体験への接近-

講演者: 吉田 達弘 教授



2019年

11月25日 月 18:00-19:30

関西大学千里山キャンパス 岩崎記念館 F402教室

概要

英語教育改革がトップダウンで進められ、現場では不安と息苦しさが充満するなか、教師の成長や授業実践の研究に取り組む教師教育研究の役割は小さくないと思います。本講演では、発達心理学者のヴァスデヴィ・レディが提唱した「二人称的アプローチ」から、授業研究のあり方を検討してみます。「二人称的アプローチ」は、対象を三人称的に切り離して考える従来の研究における人間観とは異なり、対象とのより深いかかわり(engagement)をもとに考えるアプローチです。講演では、いくつかの事例をもとに、最近の社会文化理論に基づく知見も重ねながら、授業者の「情動体験」をめぐる英語授業研究のあり方について検討します。

略歴

兵庫教育大学学校教育研究科教授。広島大学教育学研究科博士課程後期中退。専門は、英語教育学。特に、社会文化理論に依拠しながら、英語の授業研究、教師教育研究に取り組んでいます。最近、学校教育現場での対話を通して、英語教育の実践作りについてあれこれ考えています。近著として、『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(2018年、共著、大修館書店)、Team Teaching and Team Learning in the Language Classroom: Collaboration for innovation in ELT. (2016年、共著、Routledge) など。ウェブサイトは、<http://elt-research.com/wp/yoshida/>

お問い合わせ

関西大学 外国語教育学研究科 英語教育連環センター
<http://www.kansai-u.ac.jp/e-linc/>